

# 幕張五輪塔

幕張霊園に供養塔を建立し、日々ご供養し、日々功德を積むことで、霊園に葬られた方々全てに幸せが回向すると考えています。それにこたえてご先祖様も供養する方々に幸せを回向してくれると考えます。これがご供養の本意とも言えます。

開発に 2 年以上かけてこのほど完成建立したこの供養塔を幕張五輪塔と命名し、皆様にご披露する機会と相成りました。ご来園の際は、ご先祖様のお墓と同様にお手を合わせて頂きますようお願い申し上げます。



五輪塔には、下から方形＝地輪（ちりん）、円形＝水輪（すいりん）、三角形（または笠形、屋根形）＝火輪（かりん）、半月形＝風輪（ふうりん）、宝珠形＝空輪（くうりん）によって構成されています。これは、古代インドにおいて宇宙の構成要素・元素と考えられた五大を象徴するものです。

五大とは、私たちを含む宇宙全体を構成する、地（ち）・水（すい）・火（か）・風（ふう）・空（くう）と呼びならわされている五つの元素を意味します。この五大を下から順にかさねると、宇宙を構成するすべての要素が揃って一体になっているということで、宇宙全体をあらゆるシンボルとなります。宇宙全体であるということは、仏教ではそれがそのまま仏さまのシンボルということになります。五輪塔と座禅を組んだ仏さまが重なっているのは、そのことを端的に表しています。普通、仏さまは仏像という形で表現されますが、そ

れを象徴的にシンボル化したのが五輪塔だと言われています。このように、五輪塔は亡くなった大事な方が、仏さまと一体となり、亡くなった後に成仏して仏さまになること祈願して建立されてきました。

宗教学者 欽照寺の責任役員 小林隆は、幕張霊園を開発するにあたり、日本の霊園の本質を知るために奈良県周辺の有名寺院や著名な石塔などを巡りました。その際、天理市柳本町のお寺に残る鎌倉時代の五輪塔にその美しさと神々しさに打たれ、この五輪塔を幕張霊園の供養塔に再現するプロジェクトを起こし、その出会いから建立に至るまで 2 年半が経過しこの度のご披露となりました。

プロジェクトは、大和郡山市教育委員会の山川均先生監修の元、この鎌倉時代(13世紀末)の五輪塔を解体しながら各部を株式会社アコード（後藤完二社長）にてレーザー計測を行って頂き、原寸の50%の硬質ウレタン3Dモデルを製作してもらいました。そのモデルを手元に、茨城県桜川市の寺島工房（寺島 真司）が仕上げにて真壁の石を叩きました。

210センチ(基壇を入れると240センチ)を超える鎌倉時代の特徴を残す優作、当時の石造技術に平成の最新技術と職人が挑んだこの幕張五輪塔、風化した「反花(かえりばな)」の文様や欠けた部分は、鎌倉時代の当初の姿で復元し、当時の石工のノミ音までが聴こえてきそうな素晴らしい姿を復元出来ました。



元になった鎌倉時代の五輪塔



当時の様式を確認する山川先生と寺島石工



復刻した幕張五輪塔